

# 恩加島事業センター

## 1 事業概要



### 住所

〒551-0021  
大阪市大正区南恩加島7-1-22  
tel: 06-6552-1181



### 従業員数

346名 (H25.4.1現在)



### 敷地面積

54,400m<sup>2</sup>



### 事業内容

恩加島事業センターは大正6年に設立以来、クボタ発祥の鋳物製品製造に携わってきました。現在は、エンジン鋳物、排水集合管等の鋳鉄鋳物を製造しています。ISO9001、ISO14001など、環境と品質の規格を取得し、製品を通じて社会に貢献しています。



### 主要製品



エンジン鋳物



排水集合管



ポンプ鋳物



### 工場変遷(沿革)

(設立年月日)

大正6年	大阪市浪速区より鋳物工場を移転
大正11年	内燃機鋳物、一般鋳物、合金鋳物の製造を開始
昭和8年	鋳型鋳物の製造を開始
昭和14年	トンネル用鋳鉄セグメントの製造開始
昭和39年	ダクタイルセグメントの製造開始
昭和49年	量産型遠心力鋳造による排水直管の量産開始
昭和51年	高圧高速造型鋳造によるエンジン鋳物の量産開始
昭和61年	減圧造型鋳造によるダクタイルセグメントの量産開始
昭和63年	中圧高速ライン(FLライン)稼動
平成3年	消失模型鋳造による排水集合管の量産開始
平成5年	日本工業規格(JIS)表示認可
平成9年	ESライン(流気加圧式造形ライン)稼動
平成10年	ISO9001認証取得
平成11年	ISO14001認証取得
平成13年	ダクタイルフレーム開発
平成18年	新キュボラ稼動

## 2 環境方針

### ▶ ISO環境方針

### 恩加島事業センター環境方針

- 1) 環境マネジメントシステムを確立・維持し、商品の生産において、地球環境・地域環境の保全に配慮した企業活動を実施します。
- 2) 原材料の購入から製造、出荷に至る生産活動、商品及び付帯するサービスの各段階において汚染の予防に努めます。また、環境マネジメントシステムを継続的に向上させることによって、長期的で幅広い観点から環境負荷の継続的改善に努めます。  
特に、重点事項として、現場改善活動の中で
  - (1) 省資源・省エネルギーによる、地球温暖化の防止
  - (2) 産業廃棄物の削減による、循環型社会の形成
  - (3) 有害化学物質利用の削減による、環境問題の解決を推進します。
- 3) 環境関連の法規制を遵守するとともに、可能な限り自主基準を設定し、一層の環境保全に取り組みます。
- 4) 本方針を実践するための具体的な目的、目標及び施策を策定し、その実施状況を定期的に評価し、見直しを行うことに努めます。
- 5) この方針を工場の組織で働く又は組織のために働く全ての人々に周知させると共に、環境保全に対する意識の高揚に努めます。
- 6) 地域での環境保全活動への参画、支援に取り組み、地域との共生に努めます。また、この方針は公表します。

2010年4月1日

恩加島事業センター所長

毛利明彦

### ▶ ISO認証取得状況

1999.12 ISO14001:1996 認証取得 JICQA 登録番号E105  
2008.12 ISO14001:2004 更新

# 恩加島事業センター

## 3 環境保全中期計画 目標及び実績

課題	テーマ	管理指標	基準年度	2012年度			
				目標	実績	自己評価	目標未達の理由
地球温暖化防止	CO <sub>2</sub> の削減	CO <sub>2</sub> 排出原単位	2008	▲10%	▲15.4%	◎	—
		CO <sub>2</sub> 排出量	2008	▲10%	▲29.2%	◎	—
	物流のCO <sub>2</sub> 削減	CO <sub>2</sub> 排出原単位	2008	▲4%	▲41.8%	◎	—
循環型社会の形成	廃棄物の削減	排出原単位	2008	▲8%	▲9.8%	◎	—
	ゼロ・エミッション	埋立比率	—	0.5%以下	0.03%	◎	—
	水資源の節約	水使用量原単位	2008	▲4%	▲21.0%	◎	—
有害化学物質の削減	PRTR法対象物質の削減	排出移動原単位	2008	▲8%	▲36.2%	◎	—

自己評価の基準 ◎・・・目標超過達成 ○・・・目標達成 ×・・・目標未達成

※PRTR法対象物質の削減は、PRTR法改正後の物質で、2008年度を基準としています。

注)環境保全中期計画のCO<sub>2</sub>排出量実績値の算定の際は、2008年度の単位発熱量及びCO<sub>2</sub>排出係数を使用しています。

# 恩加島事業センター

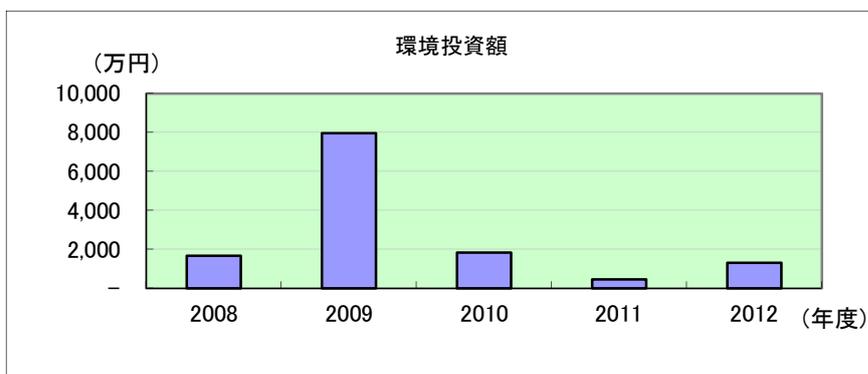
## 4 環境会計

### ①環境投資

2012年度: 1288 (万円)

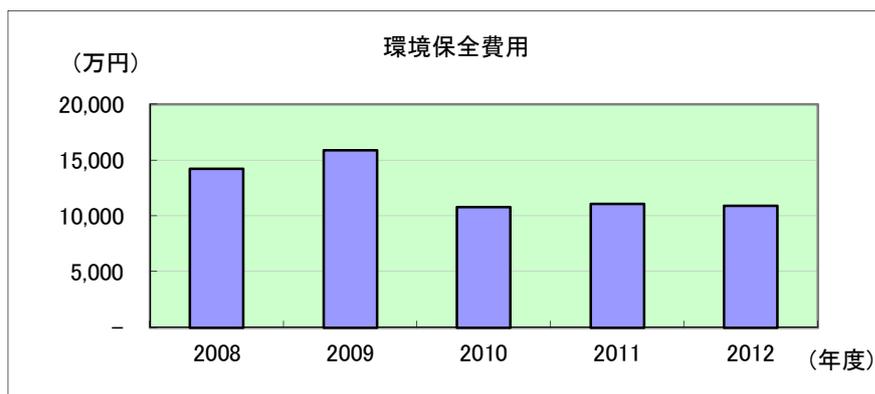
コメント

2012年度はLED照明の導入など、設備の高効率化に投資しました。



### ②環境保全費用

2012年度: 10,894 (万円)



### ③環境保全効果

効果の内容	効果	2011年度	2012年度	効果	対前年度比(%)
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギー使用量(熱換算GJ)	637,669	593,983	▲ 43,686	93.1%
	水使用量(m3)	96,748	90,413	▲ 6,335	93.5%
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	CO <sub>2</sub> 排出量(t)(エネルギー起源)	34,857	37,736	2,879	108.3%
	SO <sub>x</sub> 排出量(t)	0.76	0.81	0.05	106.0%
	NO <sub>x</sub> 排出量(t)	5.73	5.11	▲ 0.62	89.2%
	ばいじん排出量(t)	1.34	1.33	▲ 0.01	99.0%
	PRTR対象物質取扱量(kg)	287,922	274,910	▲ 13,011	95.5%
	廃棄物排出量(t)	16,250	15,995	▲ 255	98.4%
	廃棄物埋立量(t)	10	9	▲ 1	87.4%

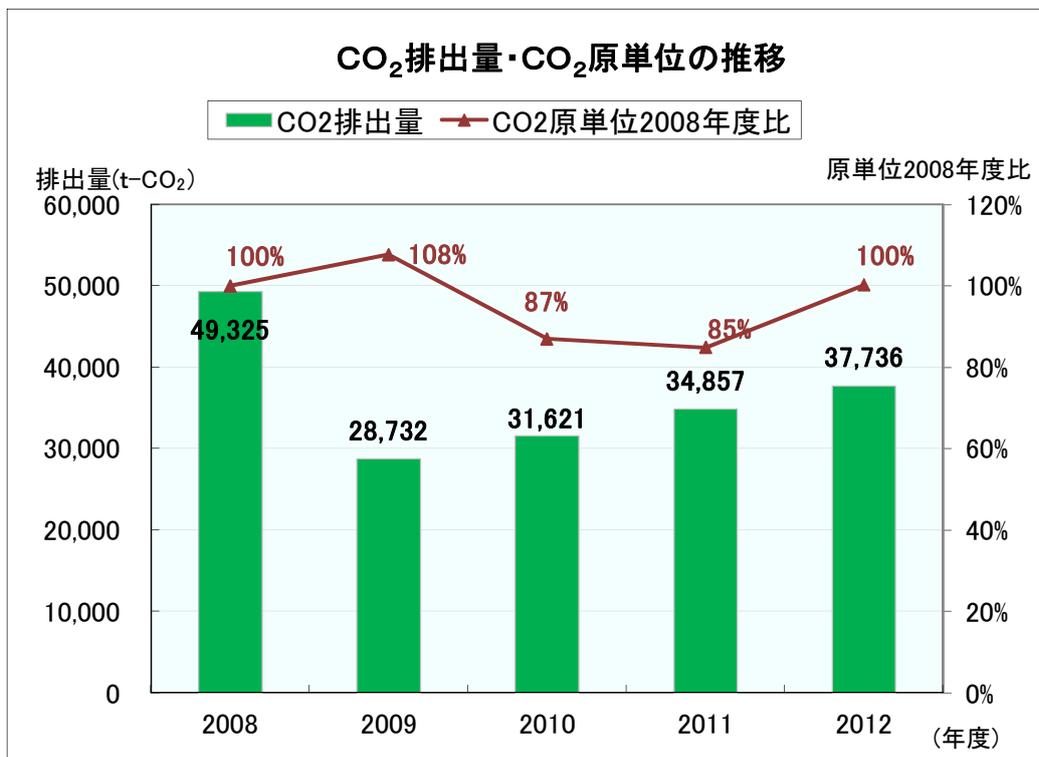
# 恩加島事業センター

## 5 環境パフォーマンス

### ①地球温暖化の防止

#### CO<sub>2</sub>排出量の削減

・2012年度は、原発停止に伴う電気のCO<sub>2</sub>排出係数増加の影響で、生産トン数当たりの原単位は増加しました。



注) CO<sub>2</sub>原単位2008年度比: 2008年度の生産トン数ベースのCO<sub>2</sub>原単位を100とした場合の割合

### ②循環型社会の形成

#### 廃棄物排出量の削減

2012年度は生産量の減少により、排出量も減少しました。

#### ゼロ・エミッション化

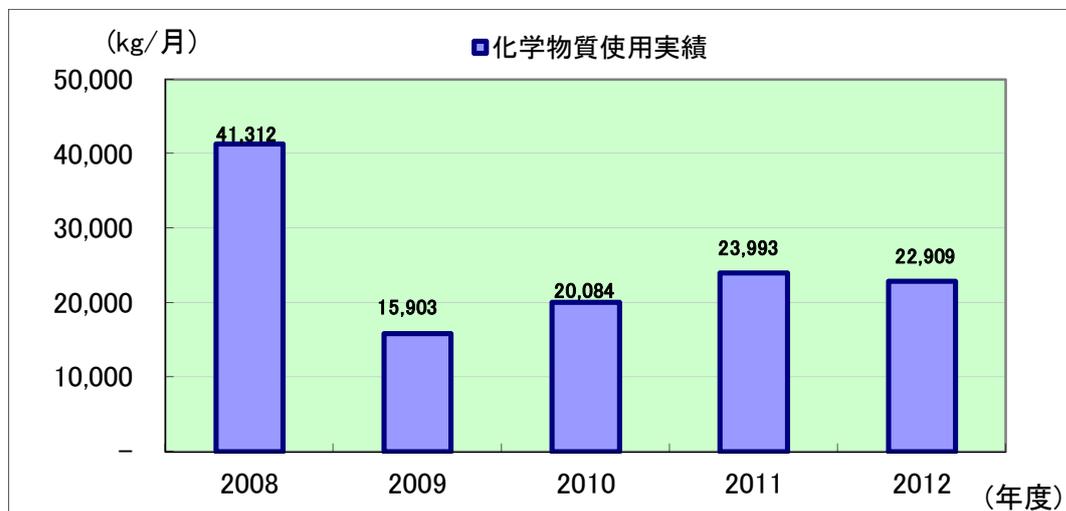
2010年度以降は、ばいじんの再資源化委託により、直接埋立てがなくなりました。



注) 埋立比率(%) = (直接埋立量 + 中間処理後最終埋立量) ÷ (有価物量 + 廃棄物排出量)

# 恩加島事業センター

## ③化学物質の削減 化学物質取扱量の削減



注) 化学物質とは、MSDSに有害・無害を問わず、化学物質として成分の記載のある製品の取扱量。

## PRTR法対象物質の排出量・移動量の削減

2012年度

単位：kg/年

政令 No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
87	クロム及び3価クロム化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,054
277	トリエチルアミン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	2,771	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	831	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
308	ニッケル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
349	フェノール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
411	ホルムアルデヒド	283	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
412	マンガン及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,612
448	メチレンビス(4,1-フェニレン)＝ジイソシアネート	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 恩加島事業センター

### 環境TOPICS

#### タイトル:天井照明のLED化による電力低減

中子第2ラインの天井照明17灯について、水銀灯(1000W)からLED照明(265W)へ切り替え電力使用量を低減させました。

## 6 環境コミュニケーション

### ①地域美化活動



清掃ボランティア活動

撮影実施日:2012年9月7日(金)

参加者:16名

毎月1回恩加島事業センター前の道路を清掃しています。



クボタ e-day

撮影実施日:2012年9月22日(土)

参加者:99名

オールクボタの行事の一環として工場周辺の清掃活動を行なっています。

# 恩加島事業センター

## 7 サイトデータ

### ▶ INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	15,325
水使用量	万m <sup>3</sup>	9.0

### ▶ OUTPUT

CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	37,736
---------------------	-------------------	--------

排出ガス	主要ばい煙発生施設		溶解炉(8号キュボラ)			ボイラー(3台分合計)		
	項目	単位	規制内容	規制値	測定値	規制内容	規制値	測定値
SO <sub>x</sub>	総量規制・K値規制とも にm <sup>3</sup> N/h		総量規制	2.859	0.05	※硫黄分ゼロの都市ガス使用		
NO <sub>x</sub>	総量規制: m <sup>3</sup> N/h, 濃度規制: ppm		総量規制	2.40	0.4	濃度規制	2.40	0.0838
ばいじん	g/m <sup>3</sup> N		濃度規制	0.05	0.02	濃度規制	0.05	0.02

排水量	公共用水域 m <sup>3</sup>	—	
	下水道 m <sup>3</sup>	全量下水(未測定)	
汚濁負荷量	COD	kg/年	—
	窒素	kg/年	—
	りん	kg/年	—

排水	放流先	項目	単位	排水口名	
				規制値	測定値
公共用水域		pH	最小値, 最大値	5.8~8.6	
		BOD	mg/l	30	
		COD	mg/l	20	
		窒素	mg/l	40	
		りん	mg/l	1	
		六価クロム	mg/l	0.35	
		鉛	mg/l	0.1	
		COD総量規制値	kg/日	113	
		窒素総量規制値	kg/日	110	
		りん総量規制値	kg/日	14	
下水道		pH	最小値, 最大値	5.7~8.7	6.8, 7.2
		BOD	mg/l	600	64
		COD	mg/l	—	—
		SS	mg/l	600	8

廃棄物排出量	t	15,995
埋立比率	%	0.04%